

～これから年末にかけて火災が増える時期です～

1. 火災の発生原因 (※件数データ等は消防庁防災情報室資料より抜粋)

平成27年(1～12月)の住宅火災は12,097件。うち3,774件が共同住宅で発生した火災です。右表①の通り、共同住宅における発生件数は減少傾向にあり、年々減ってはおりますが、1日当たり約10件の火災が発生しております。また、右表②の通り、火災の発生原因も上位に変動はありません。

コンロやたばこ、ストーブ等は注意を払うことである程度のは防げますが、放火(及び放火の疑い)はいつその被害を受けるか判りません。また、配線器具も気づかないうちに損傷してしまった部分からの発火や、刺したままのコンセントにホコリがたまって出火するというケースなど、自分自身が意識していない状況で発生することもあります。

《共同住宅での火災発生推移》

	2013年	2014年	2015年
発生件数	4,103件	3,951件	3,774件
前年比	▲210件	▲152件	▲177件

《2015年火災原因(戸建等を含む住宅火災)》

	原因	件数	前対比
1	コンロ	2,304件	19.0%
2	たばこ	1,517件	12.5%
3	放火/放火の疑い	1,464件	12.1%
4	ストーブ	939件	7.8%
5	配線器具	535件	4.4%

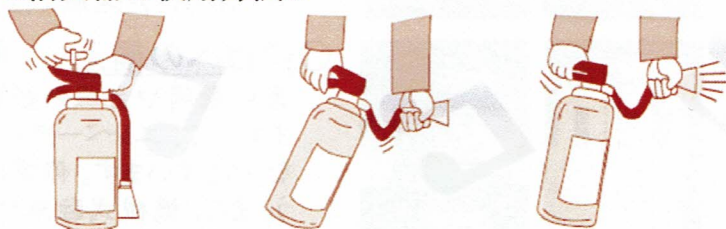
2. 火災発生時の留意事項

延焼などを防ぐために消火器での初期消火を行うケースを想定し、消防訓練で行われる水消火器による消火訓練などで消火器の使い方を把握しておきましょう。

ただし、炎が天井に届いて初期消火が困難になった場合やお子様や高齢者を避難させなければならない場合、少しでも危険と判断した場合には無理をせず、すぐに避難することが肝要です。

また、発火場所によって避難が出来ないということがないように、普段から二方向の避難経路を確認しておきましょう。

《消火器の使用方法》



- ①安全ピンを抜く
- ②ホースを外して
- ③レバーを握って放射
火元に向ける

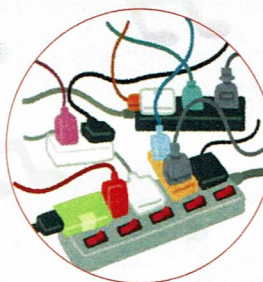
- ◇消火器は炎ではなく火元を狙って放射
- ◇火元からは1.5～2m離れ、姿勢を低くして放射
- ◇手だけでレバーを握りきれない場合は、消火器を足下に置いて、ひじをまっすぐに伸ばし体重をかけて放射

3. 火災を起こさないためのポイント

火災を起こさないために何が必要かを考えることも防火の観点では必要なことです。

たばこなどの火はしっかり消すことや、料理中にその場を離れる場合は短時間でも火を消して離れるなど、ちょっとしたことで防ぐことができる場合もあります。また、放火を防ぐために居室の周辺に物を置かないことなども防火のポイントになります。

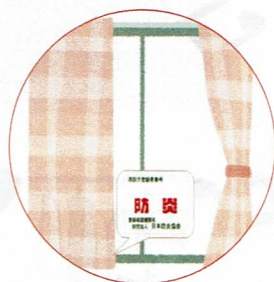
今一度、ご自宅の状況をご確認いただき、火災の恐れがないか検証しておきましょう。



たこ足配線は極力避け、コンセントの挿し込み口にたまるホコリはこまめに拭き取りましょう



コンロ使用中にお客様や宅配便等の訪問などで目を離す場合は短時間でも火を消しましょう



万が一、発火した場合でも極力燃え広がらないように防災素材のものを使用する

※管理組合で実施される消防訓練等で上記にある内容を呼びかけていただくなど、マンション内でも防災・防火の意識向上にお役立てください。

コムワン だより

H28.9.10

№54

8月中旬から下旬にかけて連続して台風が発生し、各地で被害が出ております。

台風は雨や風で思わぬ場所に被害を与えることもあり、接近するまでにできる対策を打ち、事前の備えをしておくことが肝要です。

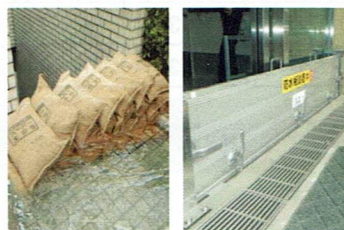
今後も台風の発生が想定されますので、今回の内容を参考にいただき、いま一度、お住いのマンションにおける台風対策についてご確認をお願いいたします。

1. 管理組合での事前準備



○機械式駐車場等の排水ポンプ点検・釜場清掃

集中豪雨などで懸念される問題は機械駐車設備の冠水です。流入する雨水の排水ができるよう、定期的な排水ポンプ点検を推奨しております。また、機械式駐車場では日常的に砂や泥、車のオイルなどが釜場に入ってしまうため、排水ポンプの稼働に支障をきたさないためにも、釜場の清掃を定期的に行うことをお勧めしております。



○土嚢や止水板の用意

マンションが周りの土地より低い場所にある場合、マンション内に浸水してくるリスクがあります。浸水による設備の停止や流入した雨水で汚損してしまう等、建物への影響も少なくありません。少しでも浸水してくる水量を減らせるように土嚢の準備など、事前に止水対策を立てておきましょう。また、過去に地域冠水があった地域では、止水板の設置を検討されてはいかがでしょうか。



○停電への備え

集中豪雨や台風の影響で停電となる場合があります。電気の供給が停まりますので、エレベーターや機械式駐車場、ポンプなどの諸設備が作動しなくなってしまう可能性があります。停電の心配がある場合はエレベーターの使用は避けましょう。また、機械式駐車場から事前に車を別の場所に移動させるなどの対応も検討しなければなりません。

2. 各個人での事前準備



マンションの保険では車両は適用外となる場合がございます。車両の被害に備え、車両保険のご加入をご検討ください。



排水不良などの問題が起きないように、バルコニー等の排水管廻りは日常的に清掃しておきましょう。



テレビやラジオ、インターネット等の気象情報や災害情報にて正確な情報を収集するようにしましょう。



バルコニー等で、強風に煽られて飛ばされそうな物、落下しそうな物は室内に移動させておきましょう。



機械式駐車場の冠水により車が被害に遭わないよう事前に別の場所に移動させておきましょう。



自治体などで配布されているハザードマップなどを元に避難経路などを事前に確認しておきましょう。



CommunityOne